

文学

三鷹

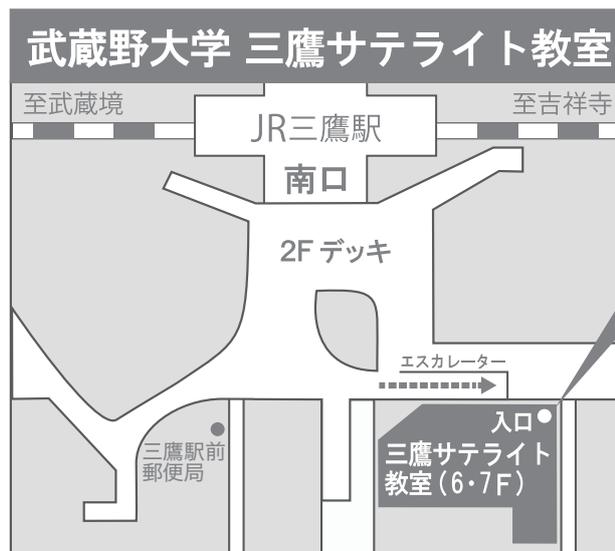
0201027

芭蕉の連句を味わう

— 芭蕉の連句「鶯の羽も」の巻の鑑賞(その2) —

受講料 (振込額)	9,000円				
必携テキスト	——				
講座概要	曜日	水曜日		日程 7月1・15・29日 8月19日 9月2・16日	
	時間	13:00～14:30			
	回数	全6回	定員		50名
	開講場所	三鷹サテライト教室 7F 大教室			
講師	本学非常勤講師 永田 英理 (ながた えり)				
	武蔵野大学・白百合女子大学非常勤講師。早稲田大学大学院博士後期課程修了。博士(学術)。専門は俳文学で、松尾芭蕉の俳諧や俳論を研究している。著書『蕉風俳論の付合文芸史的研究』(ペリかん社、2007年)、共著『連歌辞典』(東京堂出版、2010年)、『『おくのほそ道』解釈事典—諸説一覧』(東京堂出版、2003年)など。				
内容	連歌や連句は、付合(つけあい)文芸と呼ばれる種類の詩です。付合文芸とは、複数の作者が、「五・七・五」と「七・七」を交互に詠み連ねながら、次々にその世界を転じさせてゆく形式の詩のことです。この文芸は、全世界的にみても、きわめて特殊な性格をもっているといえます。 現在、俳句は多くの人たちに親しまれていますが、江戸時代に先に大流行したのは、連句(俳諧)の方でした。また、芭蕉自身も弟子たちに対して、「自分は発句(俳句)よりも連句の方が得意である」と言っていたのです。芭蕉が自負していた連句を一緒に読んで、その面白さを味わってみませんか?今回は、前回に引き続き、『猿蓑』という芭蕉一門の句集のなかから、「鶯の羽も」の巻を取り上げ、一卷(三十六句)を最後まで読んでみたいと思います。前回の続きから読み進めることとなりますが、連句は途中から読んで楽しめる文芸ですので、初めて受講していただく方でも大丈夫ですし、大歓迎です。江戸のさまざまな文化も適宜、紹介してゆくつもりです。				
	① 7月1日: 連句鑑賞の仕方・『猿蓑』「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(5) ② 7月15日: 「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(6) ③ 7月29日: 「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(7) ④ 8月19日: 「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(8) ⑤ 9月2日: 「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(9) ⑥ 9月16日: 「鶯の羽も」の巻の連句鑑賞(10)				

武蔵野大学 三鷹サテライト教室



〒181-0013

東京都三鷹市下連雀3丁目26-12
三鷹三菱ビルディング

JR中央線・総武線
東京メトロ東西線
JR三鷹駅 南口より徒歩1分

三鷹三菱ビル 6・7F
(三菱UFJ銀行のビル)

1階入口からお入りください。

- ・ 前の時間に講座がある場合は教室の準備ができるまでお待ちいただくことがあります。
- ・ 教室前の机にある出席簿に○をつけてから教室にお入りください。
- ・ 生涯学習講座登録証を携帯してください。
- ・ 欠席の連絡は必要ありません。
- ・ 駐輪場、駐車場はありませんのでご了承ください。